

◆政府 子ども・子育て新システム検討会議

こども指針（仮称）の検討はじまる

子ども・子育て新システム検討会議作業グループの下に設置された「こども指針（仮称）ワーキングチーム」の第1回会合が9月29日（水）に開催されました。「こども指針（仮称）の基本的考え方等」についての説明がなされた後、意見発表が行なわれました。全日私幼連を代表して出席した田中雅道（財）全日私幼研究機構理事長は「こども・子育て新システム」及び「こども指針（仮称）」について、新たなシステムや指針を策定する議論が先行するのではなく、まず子どもがどう育つか、50年後の子どもたちのために、どのようなものがより良いのか慎重に議論すべきである等を意見発表しました。

他の構成員による意見発表が行なわれ、秋田喜代美氏（東京大学大学院教授）、小田豊氏（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所理事長）、荒木尚子氏（全国国公立幼稚園長会副会長）、岡上直子氏（全国幼児教育研究協会副理事長）等からは、既存の幼稚園・保育所のそれぞれの歴史（文化）が大切等との意見がありました。また、藤森平司氏（全国私立保育園連盟保育・子育て総合研究機構研究企画委員）等からは、子どもの立場（視点）にたって議論すべき等との意見がありました。

第2回「こども指針（仮称）ワーキングチーム」の開催日時は未定です。なお、当日会合にて配付された資料①こども指針（仮称）に係る検討事項（案）②当面の検討スケジュール（案）を別添させていただきます。

[今号は3枚]

こども指針（仮称）に係る検討事項（案）

<検討事項案>

1. 総論

○子ども・子育てに関する理念

- ・ 児童憲章、中央教育審議会答申、社会保障審議会少子化対策特別部会第一次報告、子ども・子育てビジョンなどを基に、子ども・子育てに関する理念について検討。

○こども指針（仮称）の構成

- ・ 子ども・子育てに関する理念の検討を踏まえた、こども指針（仮称）の構成について検討。
(下記2の内容は、すべての子どもに質の高い幼児教育・保育を保障するものとするほか、家庭・地域での教育・子育てにも資するものとする。)

2. 施設での教育・保育

○教育・保育の目標

- ・ こども指針（仮称）における教育・保育の目標

○教育・養護の具体的内容（5領域など）

- ・ 総則、発達特性、発達過程
- ・ 教育の内容等（健康、人間関係、環境、言葉、表現）
- ・ 養護の内容等（生命の保持、情緒の安定）

○教育・保育時間、教育方法等

- ・ 教育・保育時間
- ・ 指導計画等作成上の留意事項
- ・ 小学校教育との整合性・一貫性の確保

○保護者に対する支援等

○その他

こども指針（仮称）ワーキングチーム
当面の検討スケジュール（案）

第1回（平成22年9月29日）

○こども指針（仮称）の基本的考え方等について

第2回～第4回（平成22年中）

○論点整理

- ・こども指針（仮称）の策定のための基本的な論点（子ども・子育てに関する理念、こども指針（仮称）の構成、教育・保育の目標等）について考え方を整理する。

第5回以降（平成23年1～6月目途）

○テーマ別協議

- ・これまでの論点整理を基に、テーマごとに、こども指針（仮称）における取扱いを協議する。

※ 平成23年7月以降、こども指針（仮称）原案を作成し、平成24年3月目途の告示を目指す。

※ 本ワーキングチームでの検討状況は、関係の審議会等（中央教育審議会等）に適宜報告する。